



深田久弥

# 山の文化館だより

令和7年  
夏号

深田久弥 山の文化館  
〒912-0067  
石川県加賀市大聖寺森場町十八  
TEL 〇七六二七二一三三三  
FAX 〇七六二七二一八一

## 深田久弥とヒマラヤ・・・

### — 諏訪多栄蔵と馬場勝嘉 —

諏訪多と馬場、日本のヒマラヤ研究者を代表するお二人の名前を挙げたのは、新たな資料に出会ったからである。先日、県内にお住いの方から、馬場勝嘉さんの旧蔵書を寄贈頂いた。それは『ヒマラヤ—山と人—』と『ヒマラヤの高峰・第一巻』の二冊である。この二冊は、寄贈して下さった方がヒマラヤ遠征をした記念に、馬場さんから頂戴した物である。いつまでも自分が持っているより山の文化館にあったほうが良いのではないかと寄贈して下さいました。

二冊の本には、深田久弥から馬場勝嘉さんに宛てたハガキ、手紙、郵便書簡が貼りつけられたり、挟まれたりしていた。全部で六通だった。また、諏訪多栄蔵さんから馬場さんに宛てたハガキ

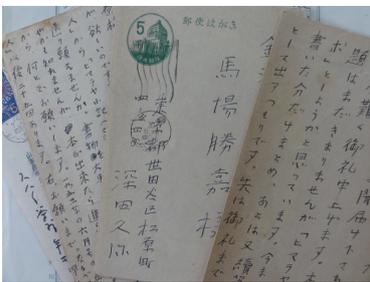


やメモもあった。お二人が、深田久弥のヒマラヤ研究の重要な支え手であったとの話は聞いてはいたが、これらの便りは深田久弥とお二人の関係を浮き彫りにしてくれる。

まず一通目は、『K2』を馬場さんから借りていて、それを返送しましたというお礼のハガキである（昭和三十年九月十九日付）。自分が持っていない資料を借りていた様で、「K2 英国版が来ました」とハガキにあるので、注文してあったのが届いたようだ。

『ヒマラヤ—山と人—』に関しては、「今度小生の『ヒマラヤ雑記』が中央公論社から出版されることになりました。ついては今から原稿の整理にかかりますが・・・」とあり、整理に必要な資料を纏めてほしいという依頼のハガキと、「早速無理なお願いを聞き届けて下されご厚志有難く御礼申し上げます。」というお礼のハガキである。

『ヒマラヤの高峰』については、ハガキと原稿用紙に書かれた手紙とがあった。ハガキ（昭和三十八年六月二

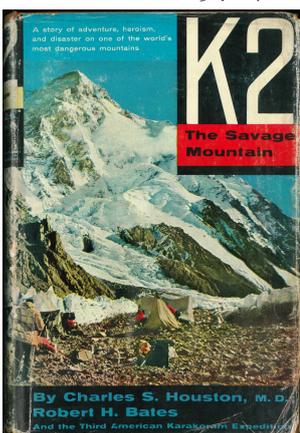


七日付)には「文献目録有難う。参考になります。」というお礼と、「もし君がINDEXを作って下されば、大変有難いと思います。」というお願いが書いてあった。九月九日付の手紙には「高山表・文献リスト有難う。大変便利にしています。お骨折りをかけて相済みません。」と礼を述べており、丸三日かけて地図上で所在不明の山の位置を確定したようである。これらの資料は、第一巻では「高峰表」として掲載されている。依頼したINDEXは、第二巻に「登頂峰一覧表」として掲載されているものである。

手紙の中には「昨日諏訪多君来訪。半日話しました。一週間ほど前にもやってきました。」とあり、諏訪多さんから馬場さんに宛てたハガキには「先日泊っていかれました」と書いてあり、深田久弥と諏訪多栄蔵の交流は、昭和二十七年、鳥海山での国体で出会って以来、大変深いものであったようである。

## この一冊

これは、旧馬場勝嘉蔵書の『K2』である。ハガキのなかに書いてあったように、深田久弥に貸し、帰ってきたその本である。貴重な経験をした一冊がここに



にある。

## 久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

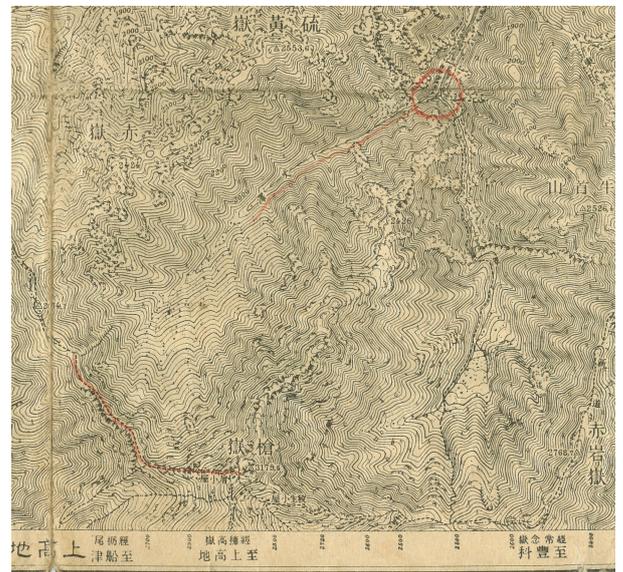
今回の五万分の一地形図は地勢図「高山」の六番、「槍ヶ嶽」である。なぜこの地形図を取り出したのか、話は少し長くなるがお許しを頂きたい。

植物学者で、深田久弥と親交のあった田辺和雄著の『山とお花畑』と題する三部作に、深田久弥が山の文章を幾つも載せている。その中に「秋の穂高・槍」と題する一文を見つけた。『日本百名山』の「槍ヶ岳」以外の文章の存在に気づいていなかったもので、興味を持って読んでみた。金沢く平湯（泊）く上高地く涸沢小屋（泊）く奥穂高岳く北穂小屋（泊）く南岳く槍ヶ岳の肩く西鎌尾根く千丈沢く千天出合（泊）く湯俣温泉く葛温泉く大町というルートで山旅を楽しんだ紀行文であった。昭和二十六年九月二十二日から五日間の記録である。

ここで、千丈沢辺りに赤鉛筆のラインがある地図が有ったのを思い出し、「槍ヶ岳」の地図を取り出した。はたして、千天出合を赤丸で囲み千



丈沢の途中まで赤いラインが引かれている。そして、槍の肩から千丈沢の源頭辺りまで、西鎌尾根にも赤いラインがあった。まさに、昭和二十六年の山行のラインである。



南側の「上高地」の地図はと見ると、その一枚に赤鉛筆のラインがあるものがあった。ラインは徳澤あたりから涸沢までだった。横尾山荘と涸沢小屋の二つの小屋のマークと「岩小屋」の書きこみがあるだけだった。

## 山の花

白山砂防新道で



ミヤマキンボウゲ



サンカヨウ



テガタチドリ

## 聞こう会

会場：深田久弥山の文化館 聴山房

時間：午後一時三十分～三時

七月十三日（日）

演題：深田久弥の足跡

講師：真栄隆昭氏

（深田久弥と山の文化を愛する会）

八月二十四日（日）

演題：何歳になっても山に登りたい！

私のトレッキング法・今昔

講師：田崎信雄氏

（深田久弥と山の文化を愛する会）

九月二十一日（日）

演題：そこに山があるから

講師：山 勝三氏

## 読書会

会場：深田久弥山の文化館

時間：午後一時三十分～三時

七月十八日（金）

『日本百名山』より「後方羊蹄山」

九月二十六日（金）

『日本百名山』より「鳳凰山」

ホームページもよろしく

<https://yamanobunkakan.com>

深田久弥山の文化館



山文HP